

# Dr. 板東のメディカルリサーチ No. 176

〈心身に 社会の因子も 考慮して〉

プライマリ・ケア(PC)医学、全人的医療、統合医療、糖尿病学、心身医学、これらの領域には、ある共通する視点の存在が知られてきた。それはいったい何だろうか？

この共通視点とは、**生物・心理・社会(bio-psycho-social)モデル**である。生物的視点とは、身体的なこと。どこか身体の調子が悪かったり病気になったりして、医療機関で診察を受け、外科的処置や薬剤などで治療を受けることを意味する。心理的視点とは、単に身体だけではなく心にも寄り添う姿勢を示す。社会的視点とは、患者はだれもが会社や家庭で生活の場があり、この面についても配慮が必要となる。これらの考え方は医療だけではなく、あらゆる組織や社会において参考としてほしい。



生物・心理・社会モデル  
(bio-psycho-social model)

## ◆内科医と 外科医で異なる 判断が

ここで、具体的な例を2つ挙げてみよう。一例は糖尿病で内科診療を受ける場合。生物面：食事と運動に留意し、糖尿病の薬を飲むこと。心理面：糖質制限が実際にできるか、するつもりがあるか。社会面：職場や家庭の状況はどうか、食事や運動について協力体制はどうか。なお、実際の診療風景では、よく患者背景を知るナースも含めて、一緒に相談し方向性を決めていく。このように、3つの軸で検討することが大切だ。あらかじめ相談しておくことが成功への道につながっていく。

他方の例は、何かの病気で手術を受ける場合である。外科医に期待するのは、あくまで優れた判断と技術である（生物面）。優しい言葉をかけてくれるが、手術は下手という外科医では困る（心理面）。職場や家、お金のことも多少配慮した内容で手術を済ませた？などというのでは不安に思う（社会面）。

このように、3つの軸があってもその重みやバランスは異なってくる。私は、医師・患者関係で3軸を説明したが、読者においては、他の状況で3軸を一度考えてみてはどうだろうか？



## ◆緊急性 判断可能 迅速機器

さて、内科や外科では、診療中の患者さんに対して、大至急で検査が必要なことがある。今回、とてもコンパクトで便利な迅速機器を紹介したい。これさえあれば、生物的な軸において、診断と治療の方向性を数分で決めることができる。

右図は筆者自身の結果例を示す。HbA1cは糖尿病の有無、CRPとWBC（白血球）は発熱や疼痛など炎症の指標、RBCとHGBは貧血の有無、PLTは出血傾向の有無などが直ちにわかる。本機器の優れた点は、簡便に緊急性を判断できること。かつて痛むお腹に手を当てるといって「手当て」だけの時代があった。一方、現在では客観的なデータがすぐに得られる有難い環境となった。さらに充実した生物・心理・社会モデルを活用できる時代が到来している。

20/05/27	11:42
ID.	
HbA1c	
(NGSP)	5.1 %
CRP	<0.10 mg/dL
SAMPLE TYPE	: Blood
WBC	40 10 <sup>2</sup> /uL
RBC	464 10 <sup>4</sup> /uL
HGB	15.0 g/dL
PLT	16.6 10 <sup>4</sup> /uL

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)